

釋迦御代記圖會

五

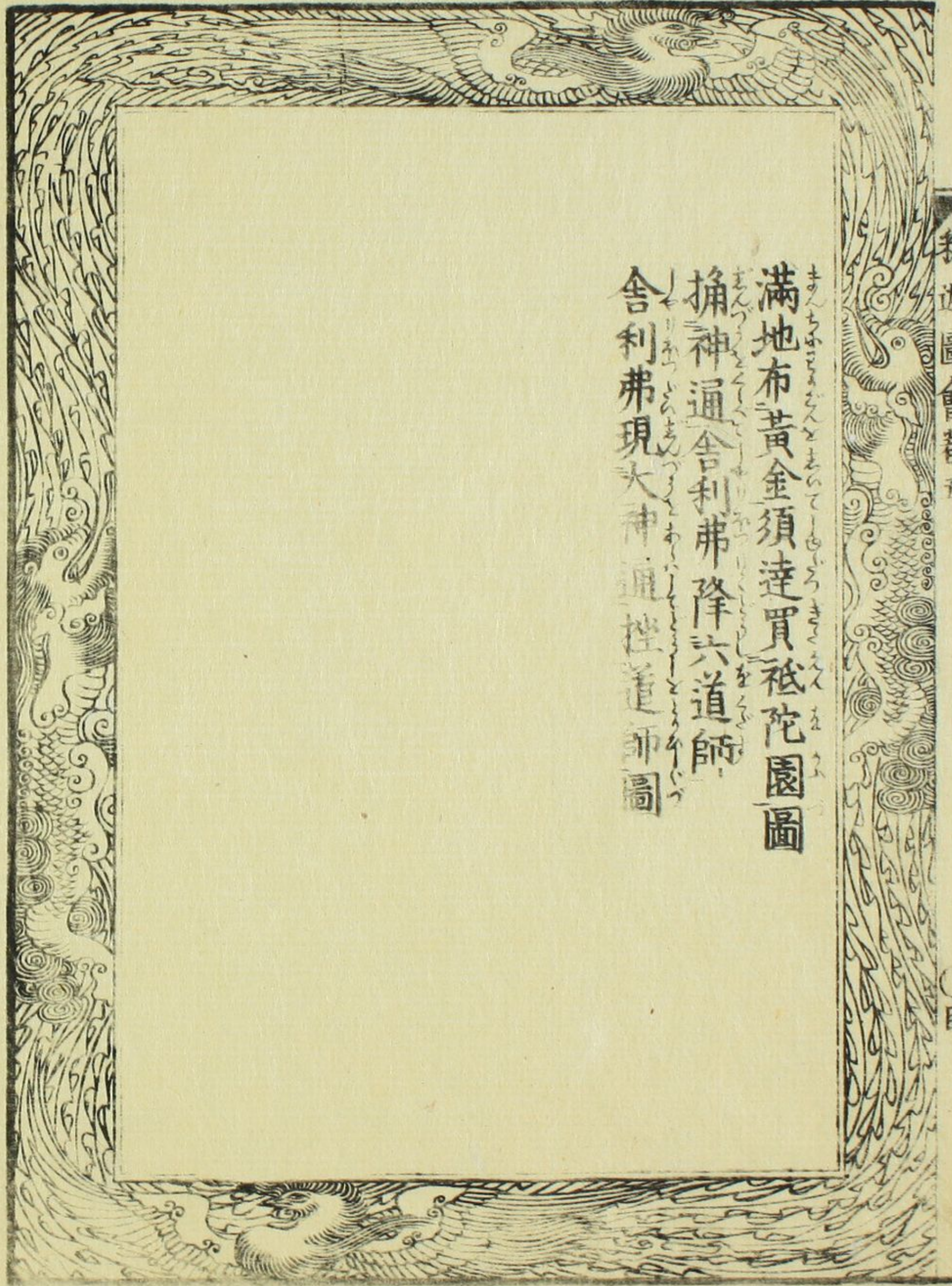


釋迦御一代圖會卷之五

目錄

靈鷲山三迦葉大闍魔軍
 三迦葉与魔軍闘神通圖
 魔種欲妨佛法却害
 提婆 蠱惑諸國太子
 欲冠世尊提婆墜活地獄 同圖
 目蓮于活地獄救提婆圖
 須達宿月蓋舍拜世尊
 須達長者買祇陀園

滿地布黃金須達買祇陀園圖
捕神通舍利弗降六道師
舍利弗現大神通控道師圖



釋迦御一代圖會卷之五

靈鷲山三迦葉大闍魔軍

浪華好花堂野亭考選

斛飯王乃太子提婆達多之弟。淨飯王之崩御。由是太子悅。以此虛小乘。入
て親尊を害す。佛法を破滅せん。亡軍を招き高議を多し。第六天の大王
進み出きて曰。我曾く佛法の世を行く。久しき憂ひ。悉達がいかに雪山難行の阿
より障身をとりし。彼奴六神通を得。上梵天帝釈四天王。其餘の天將諸
佛薩垂涙を扶助す。一度も利を得ず。茲も借考する。今釈迦父の喪小
依り。初天正寺小在。緒天將も彼所小在。護持をば。其虚を謀りて
我門ハ王舎城乃靈鷲山小押寄。釈迦乃後弟一千五百人乃羅漢比丘等。と
慶ふ。皇天親を捨主を棄て出家する。不忠不孝の們を罰し。あつと流
云さむ。以後佛道を皈依する者なく。自然と釈迦の佛法衰へ。我が大道亦
熾小なり。不知這謀計ハ奈何と云れ。提婆達多手を拍く。大悦び

是枝を剪て幹を死の妙針なり。急に靈龜鳥山小赴た羅漢に我を殺
せよと。自己八部の魔軍億萬數を領し。雲を跨り王舎城の靈龜鳥山へ
を赴た。此の靈龜鳥山者周崗小三加葉大衆を領し。富田那者世尊
小代りて銃法を聽衆小無常乃迅速なるを銃論し。在る小倉車小惡
風吹来て満山の樹木を動揺させし。數萬の聽衆。是は如何なる天災
小やと疑は強き。法話を歩捨八方に離散し。已に隨意巡回小を一千五百の僧
徒も憫果す。遂小天をぬりしける。唯視一采の黒雲飛来り。霹靂乃
音山河を震動させ。雷声小奇怪の惡鬼充滿せり。或は三面六臂或は二頭三目
或は短身長脚或は四手八足其他鱗角劍乃如く。毛髮針乃如く
かきわく。種々の惡相故拳も小違あらず。各小牙を鳴り眼を瞋し。兵
杖器械を執り群り降るる。怖ろしき人々も疎かり。大衆戰慄し。今や渠
者も小臂を喰えん。活心地たたり。然も大河加葉兄弟三人ハ

是をりて。早く提婆が障身せんと。我知く。些も怖まを。瑠璃の高座小
上り十絶の靈幡を立鐘を鳴り。磬を叩き威を示す。提婆達多左右
小對渠何者。と問。魔種の中小織者有。曰渠ハ六羯國乃優樓頻
螺耶提伽爾。と三人の兄弟悉く名を加葉と呼者。其先仙法を學び
火小華。後釈迦が徒弟となり。佛法小解。中央なるハ即兄優樓頻螺
小大加葉と呼れ。釈迦が十大弟子乃隨。あつし。合提婆達多。嘲し。以
老年乃比丘何程乃更をう。一得人。二箭小射殺。と令。さる小軍領掌
一。小毒箭を放し。雨の如く。三加葉猶一寸も動。三人ひく。右の手
を閉。三輪の大蓮華と。なり。大衆を覆。箭を遮。小軍の箭悉
く飛。回。却。魔陣を射。是。依。大。狼。狽。隊。を。乱。て。綱。と
退。三。陣。の。大。軍。入。り。猛。火。を。降。し。惡。風。を。吹。し。攻。至。る。大。河。加。葉。持。し。る
如。意。を。揮。し。是。を。拂。む。猛。火。一。小。消。惡。風。却。く。大。兵。を。吹。し。三。陣。ハ

魔頭驚歎。加葉の神通亦侮。進む向の雷乃如。如を幾して曰。魔
什伎加葉多年仙法を學び大の事な。何の連年の功勞を捨。釈迦が安。格
小惑され。寂滅の道入や。早く無益の佛法を捨。捨く仙法。不。老。不。死。乃
道を其んせ。猶悟を我が道を妨げ。身を身。髮。層。を。微。塵。小。碎。を。捨。ん
と。罵。り。なり。加。葉。天。を。仰。ぐ。呵。々。と。う。い。ひ。你。淺。魔。無。道。の。提。婆。小。慕。られ。り
我。佛。如。來。乃。妙。法。を。妨。ん。と。れ。ども。世。尊。の。大。威。神。力。小。焉。を。及。ぶ。な。ん。早。く。大
心。を。翻。し。三。室。小。飯。依。如。來。乃。教。化。を。受。よ。と。曰。大。王。此。結。を。受。く。大。の。怒。り
萬。春。屬。小。指。揮。し。関。を。幾。兵。又。を。雨。し。攻。進。む。三。加。葉。ひ。し。身。を。動。せ
む。三。個。の。金。剛。神。と。化。し。各。三。又。の。戟。を。廻。し。空。中。を。飛。行。し。大。軍。を。拂。小。唯
秋。風。乃。木。葉。を。散。と。さ。り。悉。く。雲。中。へ。逃。隠。る。大。王。大。の。憤。り。巨。口。を。開。く。火
焰。を。吐。き。鐵。杵。を。拳。く。唯。一。擊。小。せ。ん。と。飛。來。る。大。河。加。葉。本。相。を。頭。上。指。を
揮。む。火。焰。忽。ち。五。彩。の。花。と。變。じ。散。持。し。鐵。杵。弱。轉。し。小。蓮。華。と。成

れ。前。乃。廣。言。小。似。ど。慌。張。で。逃。回。ぬ。弟。四。陣。乃。魔。首。今。ら。り。て。黑。雲。を。起
し。百。千。の。雷。神。を。車。り。電。光。を。閃。り。攻。進。む。三。加。葉。一。奇。小。手。を。以。く。虛。空。に
毫。を。旋。風。吹。幾。く。黑。雲。を。散。し。水。雨。降。去。る。く。雷。火。を。消。ぬ。是。も。可。手
逃。退。く。弟。五。陣。乃。大。頭。思。惟。し。普。通。乃。業。あ。て。ハ。勝。が。く。く。自。己。身。を。躍
く。百。尋。の。惡。龍。と。化。し。天。小。飛。揚。し。て。爪。牙。を。鳴。し。大。穴。乃。如。蛇。口。成。用。丸。焰。乃。舌
を。閃。り。く。三。加。葉。を。俛。吞。せ。ん。と。下。り。來。る。大。河。加。葉。口。く。身。を。動。せ。む。心。ち。大。鴨
と。化。し。兩。翼。天。を。覆。ひ。船。を。合。せ。如。蛇。嘴。を。鳴。し。惡。龍。乃。目。睛。を。啄。小。小。子
大。王。大。の。怕。ま。化。身。を。収。め。逃。回。る。是。を。見。く。弟。六。陣。乃。大。將。萬。眷。屬。を。領。し
く。進。む。至。る。小。大。河。加。葉。如。意。を。以。く。虛。空。小。描。を。唯。見。大。軍。乃。上。小。大。石。出。現
し。藕。絲。を。以。く。鈎。り。其。河。二。人。乃。加。葉。如。意。を。以。く。空。小。描。を。忽。然。と。う。て。二。足
乃。氣。と。かり。大。磐。石。を。鈎。り。絲。を。争。ひ。割。齒。乃。大。軍。の。上。大。石。を。墜。さ。ん。と。を
大。軍。鼓。を。慌。て。逃。退。く。弟。七。陣。乃。大。頭。眾。眷。族。と。俱。小。煙。霧。密。雲。と。成



大分神画
三か葉の軍



大分神画

天を覆む俄然として世界大黒闇となり自他を見ざる隻熊のごと二加葉より
三箇乃日輪と化して天小昇るふと煙霧密雲とよの大軍となり世界明朗ふ
るも以前小勝り暑こと焼が如くなれむ大軍首成々々敗退し弟八陣のナ
王突出しく身を動せよとくく多ふ忽ち一大神と化し身材七十五丈兩足
二坐乃山乃頂を踏み踏む踏扈し瞑まる眼ハ淨破璃乃鏡をなぐ掛るごとく
鼻ハ峻峻なる山と疑れ血池ハ一般なる口耳根やぐ裂れ牙とさかかたり利劍
を植かり人々如く生出吐息虹ハ彷彿たり大加葉公然として怖むはく身と
動く增長天と化し身材百丈七宝乃大冠を願れ明々なる山光を肩十
二種乃無量相を具し方天戟を回して大神と戦ふと一千余合ハ王遂小敗色
を顕く逃退く如斯大軍術を換り攻れむ三加葉方便を變り破り
一七日間挑と闘ふ佛徒乃神通勝れ提摩達小氣を屏り大軍と率
く自國を引退たるは小於一千五百の大衆三加葉乃神通廣大なりとて

續歎世々ハカクシ

魔種欲妨佛法却害

却説釈迦牟尼世尊ハ初利天正寺に在り父君淨飯王即追福乃為且諸卿
官族乃為小諸善万行の功德附屬の統法をなすやあハ憍曇弥好客芙蓉
乃三夫人處野瞿陀弥乃一新宮感慨乃余り如來小願ハ瑠璃乃髻をそへ入
戒ハ女僧とかりお心三千乃後宮妹女中ハ剃髮浴衣の姿とかりたり
善惡ハ車乃兩輪のどくく信心善行の人々ハ事易り斛飯王乃子提婆達
多ハ靈鷲山乃争ひ小ハ加葉が為小挫れ無念骨髓小徹猶佛法小冠せん
魔王外道を集り佛法破滅乃謀を謀する小故畏乃魔王が白星を散
度釈迦乃法を妨ぐと多小神通を弄り眷屬を屬し還小釈迦を害せ
んとの謀ハ渠已を慎み信心堅固小して一念を亂さず故小毎度勝事不能
茲を以て我孰思惟し何事方便を以て渠が心を縛ら各其慢心ハ生じ

中れて、背を収め、睡して、肩を聳るる。殆ど困窮。堪へず。一人が逃出せ。我
あくと本柵を頭。雲小攀。這々魔界。巡回リ。可憐。見苦。り。り
守乃僧。是を足。大少。孩。死。世。小。錫。有。一。熊。未。を。言。上。お。如。未。大。ま。せ
玉ひ。予。疾。より。渠。們。が。障。早。せん。と。来。る。我。知。も。伴。と。ま。う。を。い。ひ。り。ま。系。リ。ナ
佛。一。如。れ。を。渠。們。を。中。後。遂。小。善。果。を。得。せ。り。り。ん。と。宣。ふ。お。大。衆。們。佛。智
乃。廣。大。方。と。大。慈。悲。心。を。感。歎。し。念。信。心。を。凝。り。ま。る

提婆達多及惡感諸國太子

悪く外道ハ世々乃嚴戒小惡果提婆が許へ巡回息も吐あへど二五十二と
結リきれ。提婆女も今六十針盡此上と如何せん。沈吟。る。亦。一。箇。乃。大
惡念を生じ。種種結て曰我法性妙顯仙。幻術を盡く傳受。れ。を。釈。迦
が。よ。く。濟。度。せ。む。國。々。を。我。先。往。迴。り。く。幻。術。を。以。て。諸。人。の。心。を。味。す。外
道を勧む。釈迦の教を疎ませ。佛法を妨人。如何。と。向。六。王。們。手。を。収。手

く這練針大ら小奴り疾々思ひま。と勸るより。提婆女飲必と。悦び素
り仙家の幻術を学び究。れ。を。老。者。と。り。女。年。と。り。霧。を。止。殺。し。風。を。呼
等乃神變自在を弄本國を啓行。阿支羅兜國。到り國王頻婆娑王の
太子阿闍世太子を昏迷。と。昏。ん。と。白。髪。の。老。翁。と。變。じ。太。子。乃。宮。中。小。到。見
く石を握。く。玉。と。り。瓦。を。碎。く。黄金。と。ま。る。か。ん。と。神。變。不。思。議。の。術。と。行
ひ。多。れ。を。阿。闍。世。太。子。小。提。婆。を。信。し。宮。中。小。停。く。重。く。饗。養。應。あ。り。く
其術を学。み。れ。る。然。又。頻。婆。娑。王。小。ひ。是。れ。と。姪。り。幻。術。り。今。釈。迦。牟。尼
佛。世。小。出。玉。ひ。其。道。を。信。む。者。と。將。来。乃。福。を。得。る。と。言。ふ。不。如。邪。道。と。捨
く。三。宝。を。信。せ。ん。小。は。と。練。如。小。太。子。此。妻。を。提。婆。女。小。告。る。小。提。婆。女。曰。く。佛。法
ハ親を捨。主。を。捨。妻。子。眷。族。を。捨。く。寂。滅。を。樂。み。子。孫。を。断。絶。せ。し。む。小
道。たり。邪。道。是。より。甚。く。れ。を。り。我。道。ハ。石。を。玉。と。り。瓦。を。金。と。ま。る。奴
道。小。く。國。を。富。し。子。孫。の。榮。を。享。む。法。を。り。豈。佛。法。と。雲。壤。乃。違。の。と。り。ん

大乃怒り。朕國乃四方。小關門を建固く。佛徒を制林。亦々々々。何國より
 来り。朕自巳神妻力を以て。渠們師弟を慶。亦々々々。根を断んと。戎
 を身小被懸。心兵刃を執り。四軍を領し。白象小跨り。城外へ押出。前面を
 見れ。親尊大衆。小圍繞せし。御身。石上小端坐し。其白毫の光赫々々
 大陽。小向。如眼々々。定ふ。小能。白象。足を縮め。首を
 低く。進み得ず。隨從せし。軍卒們。覺。地小跪。礼拜せし。阿闍世王。氣を
 厲し。是。後々々。鞭を揚。象を撃。亦々々。動。得。心焦燥。飛
 下り。長鎗を執り。間近く。世々々。法。小迫。声。叫。刺。人。と。小忽。ち
 鎗。小。鉤。針。の。如。く。曲。り。五。脉。疼。む。働。得。ず。さ。か。り。鐵。乃。繩。や。縛。られ。る。如。く
 され。呆。了。々々。忙。然。たり。世々々。微。笑。し。小。以。善。来。太。子。切。如。是。大。怨。師。緒。惡
 莫。作。衆。善。奉。行。共。益。横。難。と。唱。む。阿。闍。世。王。忽。然。々々。夢。乃。覺。々々。か
 如。く。惡。心。却。々々。善。心。と。り。覺。む。帝。械。を。投。捨。々々。恭。敬。礼。拜。合。掌。して。南。无

佛と唱ふ。小と數萬の軍士。小南无佛と唱へ。世々々。阿闍世王。小向。以
 你提婆。障。小依。五逆罪。を造。り。心。小。科。小。あ。れ。小。懺
 悔。の。為。小。其。罪。消。滅。せ。り。急。死。又。母。を。獄。中。より。出。し。不。孝。の。重。罪。を。謝。す。々
 一。と。命。名。小。阿。闍。世。王。深。く。慚。愧。し。朕。妹。賊。小。購。れ。骨。肉。大。恩。乃。又。母。を。獄。小
 下。々々。如何。か。心。小。有。久。と。號。泣。し。先。世。々々。師。弟。を。城。中。小。結。々々。供
 兼。し。即。阿。小。牢。獄。を。破。却。し。又。王。母。夫。人。を。出。し。頭。を。破。り。血。を。出。し。一。罪。之
 謝。を。頻。波。婆。女。王。五。華。陀。夷。希。夫。人。小。太。子。の。本。心。小。還。し。を。深。く。愧。び。小。以。其。之。偏
 小。如。来。乃。大。慈。大。悲。心。依。り。々々。世々々。小。拜。謁。あり。厚。く。法。息。を。謝。し。種。々。の。施。物
 を。獻。り。小。茲。小。於。々々。世々々。國。王。又。子。乃。為。又。母。報。恩。經。を。説。三。世。因。果。觀。面。の
 理。を。示。し。小。頻。波。婆。女。王。乃。夫。人。太。子。緒。臣。下。々々。感。涙。を。と。め。り。の。深。く
 三。室。小。飯。依。し。髻。を。剃。り。佛。弟。と。な。る。者。三。百。余。人。受。戒。す。る。者。數。々。す。世
 々々。由。歡。喜。し。小。以。國。王。小。辭。々々。阿。支。羅。兜。國。を。立。矩。奢。那。國。へ。赴。小。以。々々

欲冠世尊提婆墜落地獄

斯く世尊ハ矩奢那國小至リおひ向く方便を以テ龍種太子を善心
小皈せしむく顯明王を遠嶋より迎還させ。廣河般若經を説く諸人
を教化しおひ夫より瑯舍國小至りて鹿仙太子を説諭し梅陀羅維王
を深谷より扶出させ其余提婆女が惑亂せし國々を周行し悉く惑
ひを解く教導たおひこれを其國々の國王人々が佛思の廣大なる
を慕ふ三室小心を傾けざるハかりりたり。然る小提婆達多ハ此変を以て
大の憤り此上ハ我親伽小近付一刺小切害せん。劍を懐小隠し。少年
と妾に其頃世尊ハ摩耶國善勝道場小在り。説法しおひこれを雲と
踏く判那が回小道場へ到り。聽衆小雜り。世尊小咫尺となり。説法由
終り聽衆乃退散するを待忽ち本相を顯し劍を拔く世尊を刺す
らんと去り。小能然と大地裂烈と燄燃出る。大の孩た急

小退んとし。おひく足乃踏所火坑となり。其中墜落し猛火乃為小身を焦さ
れ叫んとこれと煙咽を閉し声出む。茲小於神通自在も絶し。變能す。遂
小活ふが。奈落小陥り地獄小入る。阿難怨心。世尊小對し提婆達多
が造る所の罪無量なり。と魚正しく如來及び弟子們が後弟なり。如來無縁
の衆生。成が小救ひむ。可憐大慈心。心を垂し。彼を地獄中より救出さしめ
む。願多ふ。世尊曰。渠素より佛因あり。救ひ得るべし。罪科も深重
かり。我許乃呵責を受ち。むんむ罪障消滅をば。と肯ん。肯ん。肯ん。河
難可難。猶も提婆を憐し。救を需る。三日小及び多ふ。目連ん。子。世尊
小向し。弟子願く。地獄へ赴き。提婆女を練り懺悔せしめん。と乞。世尊曰。阿鼻
地獄へ墜落する。阿鼻の音を解する。更能く。你到る。其甲斐ある
を。目連曰。弟子。よ。六十四音小通し。む。往く。提婆女小結らむ。渠解せ。か
更。よ。強く。望。よ。世尊。徐く。終。目連。悦び。神通を以て。早く。阿



新編 浮城物語 卷之五



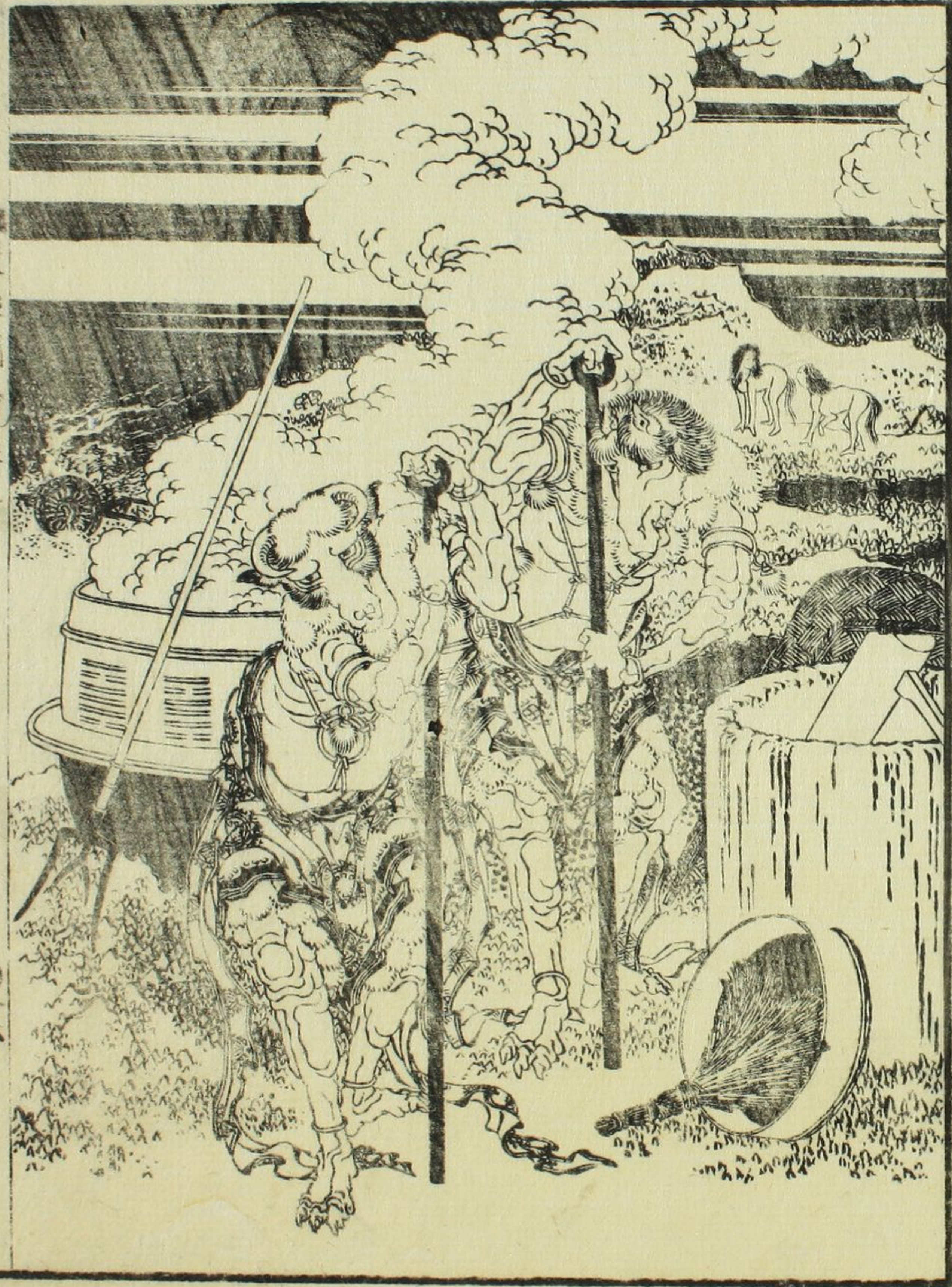
提婆世尊之害人之
生かす地獄(か)の因

尺四寸繪巻

十三

鼻地獄に到り、空中より提婆達多と呼ぶ牛頭馬頭空を仰見く曰く、吾者提婆
 を呼ぶ何妻をうたふや、同連が曰く提婆如來小寇せんく、活地獄に投せり
 阿難可難、爾等憐れ救を乞ふ、止む是れ小依く我如來、免を得く、這所
 小来きり、你們早く提婆を將て来れよと命じ、獄卒が曰く、達多が罪深重な
 れを若干の呵責を加へ、已小移骨碎身せり、今女阿待玉、對面させ進せんく
 鐵の鎗の上、小咬咀したる骨肉を銅の箕へ注り、活々と呼ぶ、され、忽
 ち提婆が形容となりぬ、され、も猛烈肥大の身材、古骨の如く瘦衰、顔色
 青く憔悴し、苦げ、小焰の息を吐居たり、獄卒、虚空を指し、你彼尊
 者を怨や不喜より、其阿達多空を仰見、れを佛弟、同連、淨雲、小駕して立
 たり、達多、涙を潜然と流し、吾者俯く願く、我を救ひ玉へ、曰く、同連が曰く、悽
 妬乃心深く、佛法を滅せんく、且諸國乃太子を惑し、五逆罪を造らせ、授け
 惡念を改む、我佛如來を弑し、もんと、其罪障無量、なれ、生かぐ、阿

鼻地獄に投せり、今你が心猶如來を恨む、將你が罪を恨み、提婆を流し、曰く、我會
 願、癡乃三毒の爲、心乃明鏡を曇せ、如來乃妙經を信せず、因果應報、統
 致、嘲り、今活地獄の苦患、小逢て、初く佛統の虚を、なす、を、知、千悔、され
 返す、一度阿鼻地獄に墮落し、く、阿責を受る、く、無量なり、或、八熱鐵の
 釜中、小投入せり、我身軀を者、火爛し、或、鐵の鎗、小咬咀し、或、般若の白子、搗、或、と
 銅板、小ち、ち、絞り、其他、火車、小責、乘られ、劍山、小追、登、され、朝、小紅蓮、乃、水、小
 身を裂れ、夕、小焦、熱、火、乃、縮、小身を焼く、其、余、百、千、乃、苦、患、二、六、時、中、息、を、吐、の
 隙、中、お、と、皆、是、自、業、自、得、果、也、他、を、恨、ん、者、乃、唯、願、く、は、者、大、惡
 惡、心、を、垂、く、我、を、救、ひ、今、一、度、提、婆、阿、待、玉、佛、足、を、拜、して、多、年、乃、罪、を、謝、す
 とも、を、く、血、乃、涙、を、流、して、啼、哭、し、れ、同、連、致、息、して、曰、く、你、同、淨、小、在、一、時
 八、威、萬、人、乃、上、出、助、力、く、大、象、を、搏、く、今、阿、鼻、乃、罪、人、と、なり、て、弱、草、と、被、
 力、わ、り、鳥、雀、小、も、欺、り、是、你、が、罪、你、を、責、る、乃、你、因、果、乃、理、を、悟、り、本



天正通會



佛勅
目連活地獄
提婆

佛勅

又下思とせり早く三室小飯依一出家得道せよと宣ひたれど提婆女感涙小
呪即坐小阿難を戒師とて僧とかり名を調達と改め是より信心堅固小
持戒し未遂小阿羅漢果を得たり。斛飯王此吏を傳せり大い先
非を悔自己遙々善勝道場へ往て罪を謝し如来を自國へ請り重く供養
し種々の施物を献り佛恩を報せられしを提婆女太子乃新宮より嫁
女臣下小いさる近盡く如来の戒を授り出家する者男女千人及び多。調
達其後三年より命終し戒行の功力小く天の樂界へ生下る是偏小佛道
修行の善果かり信むる一するむ一

須達宿月蓋舍拜世尊

茲小舍勝國一人乃長者あり名を須達と叫り家富栄く北斗を支むる
小財宝を積貯するが天性夫妻とも慈愍憐愍深く孤獨貧窮の者を恤
財宝を散りて救ひ賑はし善を修するを樂しむ故小國人奉り其徳と稱

一号と給孤獨長者と叫り此須達長者小七男子あり已小六人が一家財と
多しと脩身の段をかりたり弟七乃男子小殊小端正美質ある上智才多
衆小勝れ多きを長者夫婦にたて電愛し天晴此者乃為小天下小雙まき
容顔美麗小く志も才藝小秀する婦を娶ふと普く國中を尋求する
いもの小是を我が子の妻小かを乞ふとあり女あり名が食客乃婆羅門
乃うち廣才乃者小命に你緒國を周徑我が末子の婦小具たれ才色兼を
かんとる女を擇来りいと托りたれを婆羅門領堂し修行者となりて緒國を
廻り往き王舍城小到りたり小這國小一個乃長者あり名を月蓋と叫り是
の家富豪なる吏須達小方むと曾く善勝道場小結り世々の説法を聽
す。深く三室小飯依一僧尼及び修行者小專り予錢を絶せり然る所須達
が婆女羅門月蓋長者が門前小まき鉢を呼王舍城の國法小人物を絶し
小八婦女を以てとるかひたれ一人乃女小善小予錢を盛く携へ出り修行者

小と波羅羅門此女女を足ふ年十三四か多く天乃方合る美兒玉を欺死華を
 羞むる國色有るを大い悦び我長者の命を得る諸國を廻り或許の女と
 足はれぬいま斯程の佳人を見んば渠を長者の末子の婦と娶るも愧ぢら
 ざらと思ひ女女を礼を承りて絶思を謝し你は至翁の子なりや亦侍女なりやと
 向女女が曰妻は至翁の兒なり何故か同少波羅羅門が曰我々の相を可合ふ大福
 徳人小嫁と表あり然れども其期を過る可い福分減く大貧窮の者小嫁
 且命短し我甚く是を惜し你が父家も在る我面會し其期を教示す
 ぞと女女雅心小誠と申り裡小入く又月蓋長者も斯と告を承り子を承り
 親心福愛しと綱とたるをよめ刻小迷ひ僕を以て修行者を迎へし波羅羅
 門迎の者小後長者殿小昇り先礼を厚し拜しを長者急小礼を
 回し上坐小結し道師先我の女兒を相し我小示を所ありと曰願くは高
 九教を示しおと之波羅羅門が曰今愛実小天下小比類を我美兒をれども若是

王者乃宮妃大臣の妻妻か小具んとせむ短命を多し唯大家と等
 く富豪小く大善根乃長者乃子小嫁と長命無病少く福徳限りあり
 我先月舎佛國を修行せし時彼國の大美人給孤獨長者の許小數日
 止宿し彼長者が末子を足ふ年記十七八歳端正美兒少く智才又萬人小
 勝り我其才色具足せしを愛し婦有るを長者小問ひ其意小
 合婦ありしを娶とといひ然今熟かり大家乃今愛を彼須達が末子小
 配偶せし是天縁少く誓書厚乃匹しと縋つた若婚議を結ぶるを我
 媒酌しをせし年小任せし鏡々小月蓋素り須達が富豪小く大善心あり
 傳中其人がを慕心深けれを大い歡喜し我も兼て彼人乃大名をとり
 若其令息を女兒か婿とせし変を得る幸福何変り是小過人這國の御
 相我の女兒を娶んと乞入妻をれども皆不善人なるを以て我敢て肯ん
 其輩我須達長者と親を結をせむ如何なる針巧を殺す妨人小これ

事火急小終リ。小利あり。僥倖さかんふ我高賈たかく乃義小就つひ。明早あけより家人
 を舎傳國しやでんこくに到いたりんと欲ほつせり。道師だうし願ねがふ彼長者かちやうの我わが舎屋しやゐへ駕かを枉かため
 かう文書ぶんしよを造つくり手玉てたまへ長者ちやう小贈おくりり光駕くわがを促うながし親婚しんこん乃更さらを商議しやうぎせ
 んと望のぞむ小波なみ羅門らもん送おくり。微細ゑさい小書しよ起おこして与あたるを月蓋げつがい文書ぶんしよか
 家人けいじん小托おたくし。須達すだつ贈おくりむ家人けいじん命いのち我わが領りやうり。舎傳國しやでんこく小到こり須達すだつが許もと小往むか
 く文書ぶんしよを呈ていし。長者ちやう是こゝを披ひらかぬ。彼かの波なみ羅門らもんが書かきて月蓋げつがいか女
 女によを擇得えらむ。五ご十じゆを言いふ。大おほ小悦よろこび。即すなはち同どう小旅りよ装さうり。王わう舎城しやじやうか
 月蓋げつがい長者ちやうが許もと小到こり。初はつ面會めんかいし。互たがひ小素情そじやうを述終のたまり。酒宴しゆえんを催もよほす。月
 蓋げつがい女によが陪へい酌しやくの侍しやうし。須達すだつ此こゝ女によを及およぶ。波なみ羅門らもんが書かきて
 一ひと八はち猶なほ十じゆ倍勝ばいせうし。美女びよをれを歡喜くわんぎ小勝せうと依より親おんを結むすび婚議こんぎを約やく
 醉すいを盡つくす。其その夜よ月蓋げつがいが客殿きやくでん小止宿とどり。後のち手て夜よの頃ころ不圖ふと目めと覺おぼ
 一ひとは小家けい裡り乃男女なんにや飲食おんじの器きを考かへ。執とり。大おほ食じき食じきの准備じゆんびをかす

体ていをれ。心こゝろ訝あやり。想おもひ。月蓋げつがい我わが為ため小饗じやう應おほり。紋いづををとも。數人たすんの器き少すく。更さら足
 がれ。小數すく千せんの食じき器きを取とり。六む何なにの科しや小不審ふしん。小暗くらと。翌あした日月げつ蓋がい小
 對たいり。其その故ゆゑを問とひ。月蓋げつがい答こたへ。曰いは。明あ日にち如來にょらい及および阿羅漢あらかんを清きよく。供くわん兼ぜんせん。欲
 ともが故ゆゑ前まへ夜より。其その紋いづをか。小定さだめ。長者ちやう乃な厭いとを妨さまたけ。多おほと。謝しやと。須達すだつが
 曰いは。如來にょらいと。八はち何人なんにんを。月蓋げつがい曰いは。君きみい。ま。知しる。を。や。摩伽陀まがた國こく淨飯王じゆふんわう乃な白しろ子こ悉
 達たつ太子たいし降くだり。延のび乃な日にち天地てんちの間ま。小三十二さんじふに乃な瑞相すゐしやうを現あらわす。萬まん神しん藍らん毘び居い園えんを。法ほふ獲
 太子たいし生なむ。乃な歩あゆむ。七しち步ふ右みぎ手てを天てん小指さし左ひだり手て小地ちを指さす。天てん上じやう天下てんか唯ただ我わが獨
 尊そんと。唱となへ。三十二さんじふに相あひ半はん種しゆ好こうを具ぐ足そく。成長せいじやう小隨ずいひ。字あざなを。萬まん藝ぎ小建けん。十九じゆ乃な
 宮中みやちゆうを。出いで。擅せん持ぢ。雪山せつせん乃な靈れい場じやう小難なん行かう。多おほ更さら十二年じふにねん終しゆう。一ひと切せつ智ちを得え。無む上じやう正
 覺かく乃な如來にょらい。現あらわす。十八じふはち億いふ萬まん乃な魔ま種しゆを降くだり。三さん加か葉えつ同どう連れん。舍しや利り非ひ以下いげ。神しん通
 廣大くわいだい乃な婆は婆は羅ら門もん道師だうし皆みな徒た弟ていと。乃な緒ちよ國こくを回まわり。一ひと切せつ衆しゆ生じやうを濟さ度た。今いま
 已いま小三千さんせん五百ごひやく乃な比ひ丘きう二千にせん八百はちひやく乃な比ひ丘きう居い優う婆は塞さい優う波は夷いハ數かずを。今いま這こ國こく

善勝道場亦在法を説く依り我明日如来師徒を結ぶ供養を欲
せんとして五十を結りしを須建長者額を撫ぐ大に歡喜我如何なる福縁
有てう愚男が為小絶世の美人を得且多年渴望せし大聖釋尊を拜する
を得る悦び小勝を猶月孟舎止帝専ら如来乃光臨を相持
茲小叙尊八月孟請待小應下十大徒弟十六羅漢其餘百千の弟子を従
へ長者が館舎未臨し玉の主翁乃為小妙經を説く其後供養を受
用し又須建始く如来乃説法を聴きて隨喜涙を流して信心肝小銘下
佛足を拜して告ぐる初く本覚如来乃法顔を拜し妙經を承り胸乃雲
霧暗し煩惱の夢中覚ひぬ但慈愍萬行乃如来普く天下を周徑
く有縁無縁を化度し玉の我が舎法國を王駕をひけ玉の如何なる
佛意小やと問する世の曰你不審さる更なり抑舎法國八國王を御
下民なく邪道を信下三室を嘲り繞る故小予いしよ你が國小到る須建洞

成垂く曰願く大慈大悲の如来一度佛足を舎法國小玉の邪を滅し法を勸
く國人を化度し玉の國乃福ゆくいと誠心面小見れ願く世の點首玉
ひ你が大善心小予是を知り然も出家乃法在俗と異なり説法と云は精
舎ふえを到くと曰く須建大悦び思老が家小貯る財宝を竭ても精舎
を官と云は君積舎成就せし如来法駕を促し玉をいと問する世の
し玉の你说法と云は精舎を造りたる予速小到る國人を化度し玉の須建曰
そが如来の任し玉の堂塔如何なる地位ある建ひたるや愚意小并
願く之法弟の中地形を擇み精舎の廣狭を指揮し玉の河羅漢一人を
借玉の願く如来実の思る維を遣はし玉の思惟と云は舎法國ハ三婆
羅門種乃邪道を信むと云は原婆羅門より神通廣大なる者を遣はし玉の
國王を屈伏せしむると然く十大弟子の中舍利弗を召出玉の須建と
俱小舎法國小赴り精舎を立たる地位を擇み堂塔の數量を指揮し

がりと命し舍利弗依然とて領掌し。須達と曰道し舎衛國(赴り

斯く須達長者ハ舍利弗と俱小舎城を立舎衛國をまうて回リ々々世

師徒乃休足去りる凡科小く巧匠を雇く。二十里母小亭舎を営ま。飲

食の器を調(置)置日を徑く舎衛國乃我が館小着眷族を集く舍利弗を

拜せめ齋を致く重くや食應し。其后舍利弗と俱小舎國中を周リ積舎

を建る凡地位を求る小舎利弗が意小可地也。余リ小求るも舎衛國の大王

波斯匿王乃皇子祇陀太子乃園小い。舍利弗此園中小入く。小土地平博

小く樹木鬱茂せり。然も王城より遠くを近くを最上乃地を舍利弗

が心小合須達小對く曰這地誠小如来乃法意小可凡の地なり其のハ若王城

より遠た地ハ托鉢修行小勞煩なり。亦王城小迫た地ハ憤鬧して統法の妨あり

因く積舎を建まると小這地小勝るハあつ。須達頭を搔く曰這園自余

乃者の所領をを買得せん。と安し。と云ふ。是ハ國乃皇子乃莊園を甚く

購得く。何卒余乃地を積舎乃地位を擇む。舍利弗が曰我多日你と國中見

廻とも佛意小可凡地一所も有妻なり。鬼角もして這地小積舎を建むといふ

小を須達已更を得て承伏し。翌日太子乃宮中へ侍候し。四方八隅乃物給て後款

そのの法徳を讚歎し。這園小積舎を建如来を結して國民小佛統を聽受させ

か心悪を捨善を修して國自然安寧なり。と云ふ。祇陀太子が曰我ハ此意を凡

小あつ。と云ふ。須達曰如来を招請し。と云ふ。積舎

たを如来光臨し。と云ふ。是を奈何し。と云ふ。太子が曰何乃難た妻とあん

何方の國中より空地を需り積舎を建く。と云ふ。須達首を揮く曰否。と云ふ

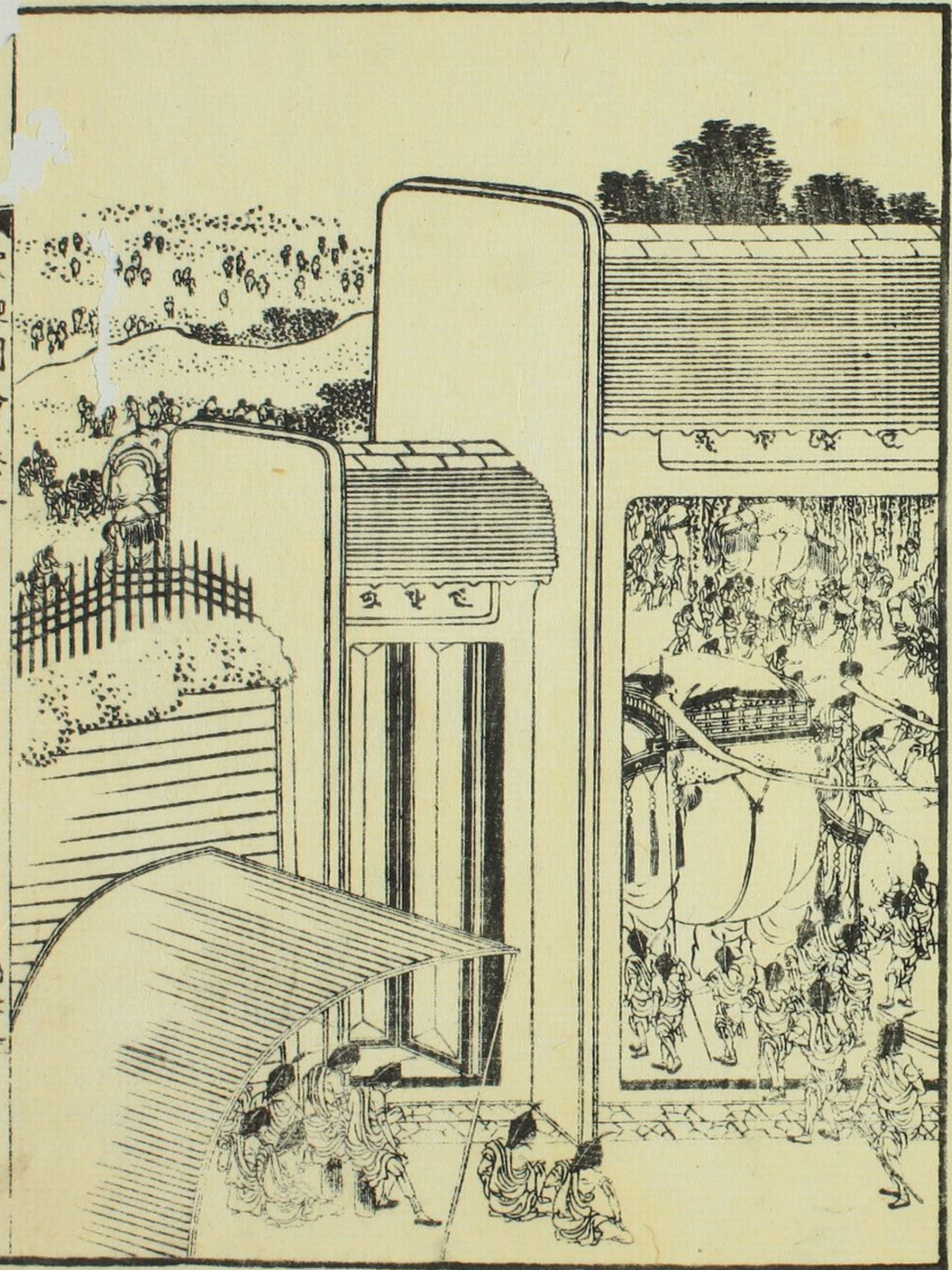
積舎の地王城より遠くを樹木鬱茂し。平正乃地なり。ハ佛意小合すと

小入國中の地理を考り。小太子乃莊園小勝るハ。願くハ彼地を小入賣すへ

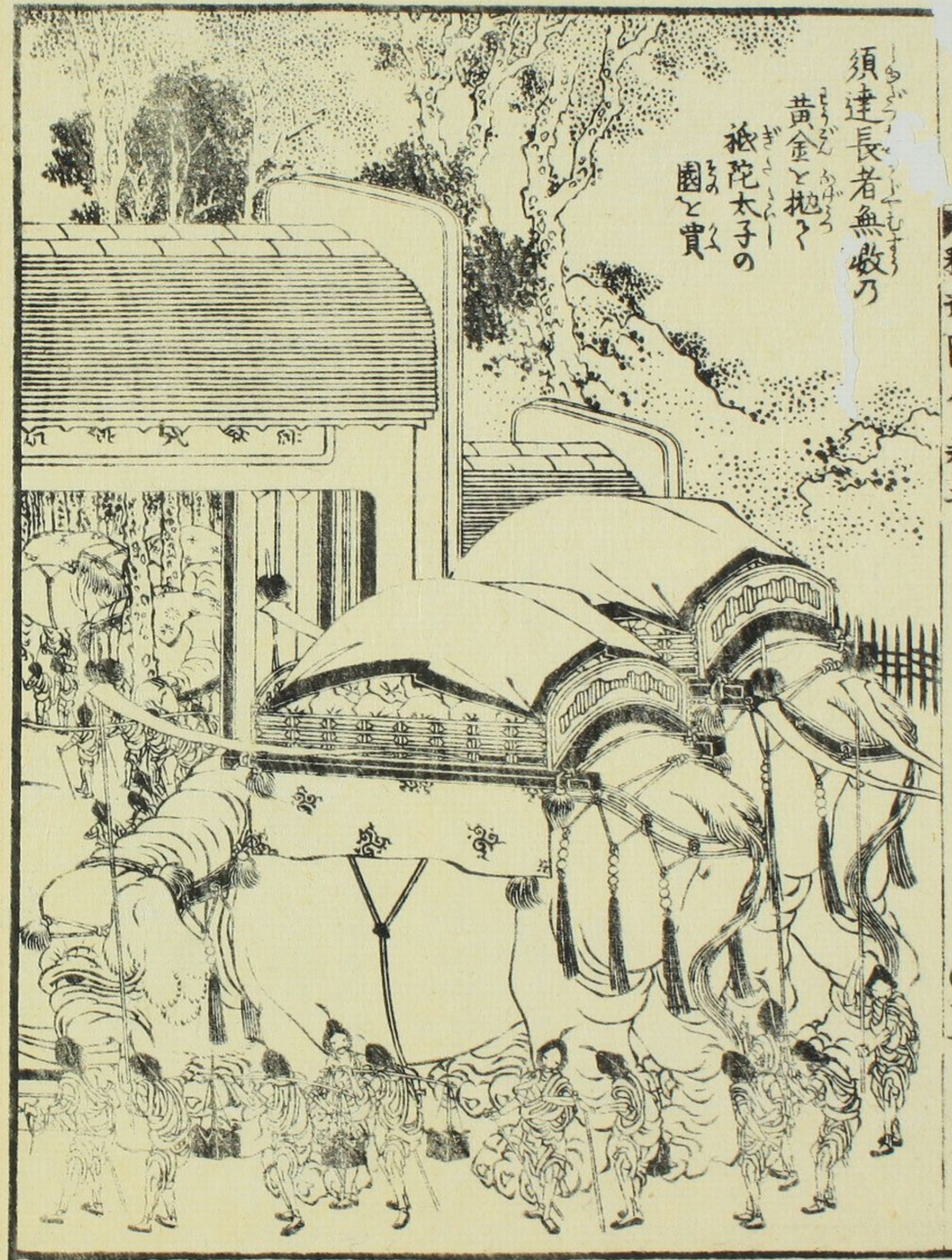
と云ふ。子あり。我這園乃太子して錢財を彼園ハ九道遙遊戲

の地ふく敢て他人の譲りて長者曰道遙娛樂二世の樂と精舎を立如來の
 化度を受るハ萬代乃幸福なり太子乃御游の地ハ彼園ハ限らず枉く小舎
 賣上と云へと再三再四懇望し止むれを太子とてあまし心中思惟しハ渠斯
 まぐ懇望しとハ價按群小貴く賣人との望を断ざしとハ須達小向ひ你
 さりふ丸圍を購得んと欲せし彼園乃地を黄金を以て布満す分の余地ハ
 残さざんし其黄金を以て園地を賣すぞハ長者歎曰王者小戲言なり小人
 之圃り園地ハ黄金を布て購ひ取りて坐を起私宅へを圃りたる太子大
 つ小強た丸素り園を賣る意なりと云ふも渠が望を断人爲小價を貴く云ふ小
 豈そく人渠猶屈する色なく領掌して取るぞとハ是ハ如何小を全れと心地惑ひ
 取ひたる小流石ハ約定せし一言を違背せん更ハ能く廣大乃園地ハ富貴家ハ
 須達なりともハ彼地を布隠を程乃黄金ハ貯得と唯長者が財乃足さず人
 更を祈られける須達長者館舎小圃りて倉粟を圃た數億萬乃黄金と五

頭乃大象小肩せ抵陀園小到り地乃廣き分量小凡八十頃小向たり即ち數百人の
 下僕を分ち自己指揮して滿地ハ黄金を布し五分五頭乃大象小肩しめさる
 黄金小く猶不足亦二頭乃大象小黄金を肩来らりて一寸の地を由見しぞ
 遂ハ滿地を布隠しければハ廣大乃抵陀園ハ金光日小映りてさなる金色
 世界乃如く見る者目を發し驚歎せざるハなかりたり抵陀太子ハ疾より園未
 り須達ハ黄金乃數量をこふ七頭乃大象小汗を許乃黄金を肩せ来る
 を見し心懊悩し斯てハ此者遂ハ丸圍を買取ぞ如何せんと思ひ煩れりか
 恥と心付しや須達滿地ハ金を布満とも猶羨萬株乃樹木あり是ハ約定の
 外かれは是を以て拒むると念居られり今已ハ滿地ハ黄金を布終りたるに
 んく不覺嘆息し斯無數乃財宝を抛て歎歎乃爲小精舎を造営せん欲し
 須達ハ信ぜりてんを世乃法徳弘大なる事推し知るし不如ハ此の
 園地ハ木を悉く世乃寄附し須達と俱小精舎を建立し將來の福と祈



須達長者無傲乃
 黃金と抱く
 祇陀太子の
 園と賞



らんおのく。茲小初く大善心を幾し。須達小習く曰汝已小滿地小黄金と布ままを園地小依小賣をに隨意小如来小寄進せよ。然れども樹木之凡小所有なまかん丸き。是をせざる小寄附とを。とあるふと須達躍上く大の小悦び。斯乃如くたれを精舎成就せん。と何ぞ心を勞と多小や及んれと。堂塔造営の高議とる所小忽ち月蓋長者来り呼く。と曰公等之。大善根をなすこと。かれ我小一臂乃力を添るを許せよ。と望む兩人其由を問月蓋曰園地ハ是須達施主なり。樹木ハ是太子施主なり。我ハ二通を雇ひ堂塔を造営するの施主とある人太子須達大の小悦び。三人相侶く須達が家小到り舍利弗小面會して精舎營立乃高議をなす。茲小六人の道師あり。皆仙法を學び神通を弄國王も卿相小重く信せられ。須達長者祇陀太子と心を合せ釈する乃為小精舎を營立建人となる。や成はく大の小怒り相續して曰這國小精舎を立瞿曇比丘を任じむるならむ我が道忽ち衰滅

しる。不如大王小松く精舎造立を停止せしめん。と如斯衆議一致して六師亦く波斯匿王小見く奏く。多々祇陀太子須達が女言ひ惑され。此の瞿曇沙弥を信し精舎を造立し。渠を招へし。而も是大の力を大國の賣ひ。衰乱の基おる。願くハ大王太子小初く精舎建立を停止し。須達を捉へ。重く刑し。或は戒とらへ。告を國王に。曰朕更淨飯王乃子釈迦が法義人天を化度し。功德廣大なり。と。百國心を傾け。天下皆渴望と。是亦依く朕も二回釈迦と請く。其說法を聽んと思ひ。法を無益の道ならむ。聽小及。太子が造営乃停止を。唯憾らくハ朕卿們が修する道と釈迦が修する道と何ぞ勝り。何ぞある。妻をもち。心は疑惑せり。是を奈何せん。六師ハ首領勞度差し。以者席を進ん。曰は何より。最安れ。更あ。今須達を舎し。止宿する舍利弗。此江佛徒數千の中より抽で。れ這國小来る。知加。手段あり。口を命じ。然るに我門渠と法術を揃ひ。若舍利弗勝る。精舎

弟を委し、場小く坐小着其時、銀鼓を擊、西の門を闢、舍利弗、須
達長者を従ふ、徐々として歩み入り、殿の席小着、音事の諸人、東西の勢を
見らば、六師の悉く羅綾錦繡の衣を穿ち、意気揚々として、舍利弗、只麻の法衣
布の袈裟を身小纏ひ、勢ひ微々として、衆人嘆息、可憐、這比丘僧、
ひを好む、二道師が為、如何なる幸若を受らん、といひ、それあり、裡死、命の重
鳴り、これ六師の中、も特小神通廣大と、皮を穿、一、勞度差、坐位を起、竟、
出瞿曇、徒弟来、ま、呼、其時、舍利弗、立對、問を待、小、勞度差、曰、
舍利弗、你が師、又瞿曇、汝、彌、八、妖、怪、の、變、生、也、胎、内、小、居、三、年、母、親、乃、右、脇、就
破、く、出、生、一、早、く、不、孝、の、罪、を、犯、一、刺、高、恩、の、父、を、捨、て、邪、道、を、學、び、天、下、の、人、民、を
惑、し、君、父、を、捨、妻、子、を、捨、嗣、を、斷、族、を、絶、ま、の、道、小、入、は、是、不、忠、不、孝、の、教、也、
抑、我、が、這、舍、佛、國、を、君、臣、賢、明、小、親、迦、が、邪、統、を、用、ひ、ま、我、が、真、正、の、道、を、信、
君、臣、又、子、乃、倫、を、亂、ま、ま、を、亂、ま、ま、唯、須、達、と、至、愚、乃、國、賊、あ、つ、親、迦、が、女、給、小

瞞、れ、太、子、小、勸、這、國、小、道、場、を、闢、人、と、欲、ま、是、迷、ひ、の、甚、ぶ、り、れ、を、れ、大、王、小
奏、し、今、日、這、場、小、於、你、と、我、術、を、揃、明、く、小、國、人、小、道、家、と、佛、家、と、何、ま
う、真、方、を、更、を、知、ま、ま、欲、せ、り、你、が、術、勝、を、積、善、を、ま、更、を、許、ま、ま、
我、小、及、ま、ま、入、を、須、達、九、族、を、滅、一、你、骨、を、移、小、肉、を、泥、と、ま、入、但、一、術、を
揃、ま、ま、以、前、小、非、を、悔、く、罪、を、謝、一、乃、を、幸、小、一、命、を、怒、一、放、ち、飯、り、三、思、こ
加、へ、答、を、お、せ、ま、と、罵、り、り、り、舍、利、弗、天、を、仰、ぐ、大、小、笑、ひ、ま、加、綾、頻、迦、乃
吟、む、る、を、中、く、燕、雀、を、轉、り、我、が、音、猶、頻、迦、一、微、妙、を、り、想、く、一、你、們、が
凡、眼、を、以、く、凡、心、を、我、佛、如、來、乃、妙、法、を、不、忠、不、孝、の、道、一、或、ハ、邪、道、と、
お、い、ふ、ま、是、麒麟、乃、生、虫、を、喰、は、ま、ま、豺、狼、乃、笑、ま、如、く、所、經、你、們、と、口
舌、の、論、ハ、無、益、な、り、你、術、お、ま、絶、せ、ま、我、盡、く、是、を、破、る、乃、と、事、を、お、け、お
答、を、れ、乃、度、差、大、小、怒、り、惡、死、比、丘、が、廣、言、く、我、が、本、事、を、凡、人、と、
眼、を、閉、く、女、阿、念、ま、れ、を、場、乃、中、正、小、一、抹、乃、小、木、生、出、く、雲、段、乃、緒、人、目

と瞬くして毗居る小衝を長太とて枝繁り葉を増く中天小生上り
日影を覆ゆる小紫系茂し花咲景を結小と衆人あつと感し実希代乃神通
かんと讃歎する声女時ハ鳴も止まりり舍利弗是をえく右手を揚ぐ天を
指さるる俄然く旋風吹散り方度差大木を根をく吹抜地小倒る
微塵とたれ衆人是をえく再び感歎し這般乃術捕舍利弗者勝る
賞言し三方度差を奇再び咒文を唱えん忽然く場中小池水現し
周り乃巖石盡し七宝を積重澳小種々乃妙花咲出たり舍利弗亦指を以
て虚空小描む六牙乃白象出現と一身長大小く牙乃上毎小七莖乃蓮花
生し其莖毎小七人の王女坐せり件乃白象池辺小歩より湧溢る池水と
一滴の残さずと吸盡せん玉女袖を空く花木を拂小池も花石も雨滴のしり小
消白象ハ雲を踐み天小昇り方度差二度の不觉をとり忙然く再び
神通を弄変能はし是小依り緒人々舍利弗信度も勝ると言同小六

師乃二人拔迦耶とい者方度差小換り場小進し出言の向答もけ捨訣念咒
結を唱を忽ち一坐乃大山湧出泉滝樹木草花盡く具足し山上一字乃
堂塔あり皆七宝を以て壯嚴せり諸人は是をえく嘆美する所小舍利弗も
天小描む數丈乃金剛力士天より降り金剛杵を揚ぐ山を一撃とればその
大山砕け散て雪の如く消失たり拔迦耶怒り亦咒結を唱むと一個の龍池中
より出現と一身小く十頭あり鱗角を鳴り爪牙を顯し虚空小飛騰大
雨を降し黒雲を發雷電天地を震動させれを衆人恐怖して戦慄せざる小
舍利弗女も發がと一念とれを唯視一羽乃金翅鳥飛来り龍を搔抓引裂
喰是小依り雨霽雷収り白日皎々たり衆人心を安し舍利弗が勝を賞しね
其時亦六師の中より迦里闍とい者拔迦耶小換りし進し出捨訣念咒結を
唱れを俄然く一大牛出現と身軀肥壯小く鹿足利角あり大乃吼り地
を奔ると疾風乃如く舍利弗小向く角を揮り衝来る舍利弗又一念とれば



しかりやまのたけのこ
舍利弗大神通
現して六師等と
闘ふ

大正四年五月

七八



大正四年五月

巨大の師子現はる大牛を齒牙おろして分裂裂けて喫盡とは是れ依り迦厘園
も勝斐能と引退く又六師の中より耶羅伐といふ者進み出身を動く夜又
神となる身材十四五丈頭上小火燃眼中赤く血の如く四牙長く利き眼光
日月小舟緒人畏を多く怖まざるなり舍利弗も同じく身を棄て毗沙門天
と化し身材二十丈三叉の戟を廻し夜又神と闘ふ數十日夜又神力疲れて
逃入ともなる猛火燃出く東西南北路ありと耶羅伐大の怖ま本拠を頭
する者怒りまとい叫む須臾小猛火消舍利弗假相を收り本坐ふる六師の
中遲屠斯賓鳩墮の二人を勝たれを知り出合と茲小於て舍利弗身と躍
く虚空小昇ぞとんえたるが端然とく空中小立身上水を出し身下大を出
し東小没し西小現北小隱南小現或は身を百丈ふして跋扈或は身を分
寸小く宛轉或は身を分寸千萬とたり或は合し一身となる其變化究
りたれを國王太子卿相も無数の看者感嘆小勝を譽る声百里の外小

徹する許なり。我慢ろ六道師也。舍利弗の神變奇特を以て屈伏し各
前の罪を謝し。おれざる者如來小願ひ我を佛弟とす。望まれに従隨
せし徒弟們も俱小得道。入道を願ふ。舍利弗善哉々々。是を許諾し
場中小高座を設け。自己是より衆人乃為本行宿福の因縁。端的なる變
を示し。比喩を設け。佛道の甚深微妙を説き。これに聽衆無明の瞶を穿
き。感涙の袖を絞り。斯く説法畢。これに億兆の聽衆歡喜踊躍して已か
隨意之去。國王太子臣下と俱小舍利弗を請ひ。城中還り。玉の種々小供養
し。金銀綉帛を布施し。舍利弗恩を謝して。王宮を退た。須達が舎小回リ
く。後太子も須達月蓋と高儀し。玉匣數千人を以て祇陀園を剪ひ。た
伽藍造営を始む。

